

教科	学年	科目	集計結果の分析	後期に向けての課題
国語	1	現代の国語	授業の在り方についての項目については、生徒から高い評価を得られたが、「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」という点については、評価が低かった。	後期においては、生徒が授業で学んだことを身に付いた、できるようになったと実感できるような、単元の連なりを意識した学習活動を計画していきたい。
	1	言語文化	他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める点については、グループ学習等を設けていたこともあり、多くの生徒が実感できたと感じた。しかし、授業の中で、できるようになったと実感できた点は低く、主に動詞の活用が原因と考えられるため今後の課題としたい。	今後もグループ学習等は継続しつつ、授業の中で学んだことができるようになったと実感できるよう、内容理解はもちろんのこと、文法事項についても復習を重ねていきたいと考えている。また、生徒自身が既習事項と結びつけることができる授業づくりを行っていきたい。
	2	論理国語	言語活動の分野においてはおおむねこちらの意図が生徒に伝わっている様子が受け止められた。一方、そういった言語活動が学習の振り返りにあたることや、問題解決能力の補助、および日々の学習と結びついているという実感を生徒は得ていないように思われる。	生徒が主体的に学習に取り組み、自身で考える姿勢をこれからも尊重したい(その旨を生徒に理解してほしい)反面、授業のねらいや学習活動の意図をより明瞭化することが必要である。明確化された学習目標の中で生徒がよりよい自己研鑽に臨めるように努めたい。
	2	文学国語	はじめに授業のねらいを示したり、あとに振り返ったりする機会が少なかったこと、できるようにな少ないこと少ないことが、生徒の評価からうかがえる。	授業や単元のねらいをこれまで以上に明確に示すようにする。理系の文学国語は、読書と創造と実践に重点をおいているので、相互のアドバイスをもとに生徒が自分の能力を高められるように努めたい。
	2	古典探究	他者の考えを知り、自分の考えを広げ深める機会が少ないことが、生徒の評価からうかがえる。	前期は、知識の習得に力を入れていたが、後期は、グループ活動の比重が多いので
	3	論理国語(文系)	グループでの活動を通して最新の話題について活発に討論を行い、様々な考えに触れる機会を多く設定したことで、多面的な視点を持つことができるようになった。	授業や単元のねらいをこれまで以上に明確に示し、フィードバックを効果的に行うことで、さらなる知識の定着とそれらを使いこなせる力を高めたい。
	3	論理国語(理系)	はじめに授業のねらいを示したり、あとに振り返ったりする機会が少なかったことが生徒の評価からうかがえる。見通しを持って授業に臨み、振り返ることで学習内容の理解を深めたいという生徒の姿勢の表れと考えられる。	毎時間の授業や単元のねらいを明確に示すことで、生徒が見通しをもって授業に臨めるようにする。自分の考えをまとめ解決方法について考える場面を多く設定して、生徒が自らの考えを広げ深められるような授業展開に努めたい。
地歴公民	3	古典探究	「できるようになったことを実感」と実感できる生徒が少しずつ増えている。ねらいや振り返りが生徒に十分伝わっていない面もあるようなので、ねらい示しつつ示しつつ、授業内容に入ることを意識したい。	三年生の授業なので、入試で得点できること、希望の進路決定に役立てることを意識して授業を進めていきたい。主体的に学習を進めている生徒も増えており、うまく支援していきたい。
	1	歴史総合	他者の考えを知り、自分の考えを広げ深める機会が少ないことが、生徒の評価からうかがえる。歴史という科目の特性上、教師が一方的に情報を与える場面が多く、生徒自身が考える時間および他者と考えを共有する時間がとれていないことが原因と考えられる。	歴史を学ぶ中で、生徒が「なぜ」と感じることは少なくないと考えられる。適宜生徒が考える時間を設け、ICTを活用して他者と考えを共有することで、教師が一方的に情報を与えるのではなく、生徒主体の「考える歴史」の授業が展開できるのではないだろうか
	1	公共	授業のねらいおよび振り返りの機会が少ないことが、生徒の評価からうかがえる。毎時の授業で特に何が重要なのか意識したり、授業の結果、何がわかったのか、疑問に思ったことは何なのか振り返る機会がほしいと生徒は感じていると考えられる。	毎時の授業でねらいを示したり、振り返りを実施するのは難しいかもしれないが、最低限単元のはじめでねらいを示し、単元の終わりで振り返りを実施するようにする。特に、振り返りに関しては、Google フォームなどを活用して行えると、生徒間で疑問点の共有などができるのではないか。
	2	地理総合	他者の考えを知り、自分の考えを広げる機会が少ないということが生徒の評価から分析できた。自身の考えをまとめる機会については設けていたが、他者との意見共有の機会を生徒が求めていることが分かった。	前期では地理の疑問点について自身で考察する機会を設けたが、後期では発展して自身の考えを他者に発表し合い、自分の考えを広げていく授業展開を行ってきたい。
	2	日本史探究	ペアワークを通じて、他者の意見を理解した後、単元のまとめを行うことで、自らの考えを広げることができていると感じている生徒が多いことが分かる。	できるようになったと実感する生徒が少ないため、フィードバックを丁寧に行うことや、入試の過去問題などでの演習を通じて客観的に評価できる機会を設けたい。
	2	世界史探究	他者と話し合う機会を多く設けることを意識した授業をおこなうことで、多くの生徒自身の考えを広げ深めることができた。また、授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解する力を付けた生徒が多く見られた。	課題解決方法を考える機会はあるものの、それを上手く活かせないと感じる生徒がいるので、生徒が「できるようになった」と達成感を持てるような授業展開を工夫していきたい。
	3	日本史探究・精選 α	授業のねらいの提示や、振り返りのワーク等、学習活動の目的が生徒にも伝わっていることが分かる。	できるようになったことの実感させたり、自らの考えを広げ深めたりするため、基礎的な発問を増やし、生徒一人ひとりが学習事項に関して自信を持てているかを意識して授業を展開したい。
	3	世界史探究・精選 α	世界史探究と同様、ねらいと振り返りを意識して授業づくりをした結果。評価が高く、効果を感じられる。講義形式のなかでも、自分の考えをまとめる時間を取り、解決方法について考える場面をつくることができた。	引き続き、単元のねらいと振り返りを意識して授業づくりを行う。前期に学習した内容をもとに、19世紀の世界の歴史を発展的に学び、探究させる。
	3	日本史精選 β	課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面を通じて、授業で学んだことをそれまでに学んだことと結びつけて理解できている生徒が多く見られた。	自らの考えを発表し、他者の意見を知る機会が少ないと感じている生徒がいるので、ペアワークやグループワークを用いた授業を展開していきたい。
	3	世界史精選 β	授業のねらいを生徒が理解しており、何のために学習しているかを伝えることができたと感じる。反面、講義形式になるため、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会が少ないと感じる生徒も見られた。	後期も授業のねらいを意識して行っていく。加えて、グループワークで他者との意見交換を行い、自身と他者の考えを深めていく授業を展開していきたい。

数学	1	数学Ⅰ・A	授業の中でできるようになったことを実感させるとともに自身の考えを他者に伝え理解を深めることができた。一方で、一回一回の授業でねらいや振り返りができることが少なくなってしまうことが多かった。	授業のはじめと終わりにその授業のねらいや振り返りができる時間を設ける工夫をする。生徒たちがさらに理解を深めることができるように授業プリントや小テストを活用して、生徒同士の考えを発表する場を設ける。
	2	数学Ⅱ	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感させることができた。一方で、周りの生徒と考えを深める機会を設けたが、上手く活用できず受け身になることが多かった。	周りの生徒と意見を交換しやすい雰囲気やグループワークへの誘導を工夫する。また、ICT教材等を活用し、視覚的・直感的に理解できるよう工夫する。
	2	数学B	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感させることができた。一方で、周りの生徒と考えを深める機会を設けたが、上手く活用できず受け身になることが多かった。	周りの生徒と意見を交換しやすい雰囲気やグループワークへの誘導を工夫する。また、ICT教材等を活用し、視覚的・直感的に理解できるよう工夫する。
	3	数学Ⅲ	多くの生徒が授業内容を理解し、活用することができているが、既習の部分が不足している生徒にはなかなか難しく取り組みにくい部分があるようである。	各自の進路実現に向けて、それぞれの生徒が成長し力をつけられるように、問題や課題を精選し、ICTを活用するなど工夫をしていく。
	3	数学Ⅰ（3年）	既習内容を基盤とした応用問題に取り組みつつ、総復習を行う授業に、おおむね満足している様子が見られる。忘れていた内容をおさらいする良い機会となっている。	受験問題を題材とした演習により応用力の養成を図っているが、今後は要点整理や振り返りを重視し、既習内容の定着と発展的理解の両立を図っていきたい。
	3	数学Ⅱ（3年）	既習の学習を基礎にした応用問題取り組み、ながら総復習する授業内容におおむね満足しているようである。公式や基礎事項の確認のよい機会となっている。	生徒一人一人が進路実現に向けて取り組み、達成できるよう、問題や課題について厳選していく。
	3	数学C	概ね知識を定着させることができた一方で、単元学習の過程において他者の考えを取り入れ、自らの思考を深化させる機会は十分ではなかった。	知識の定着は概ね良好であったが、学習過程において他者の考えに触れ、それを基に自身の思考を発展させる機会はやや不足していた。今後は入試問題などを活用し、より深い理解につなげていきたい。
理科	3	応用数学	既習の学習を基礎にした応用問題取り組み、ながら総復習する授業内容におおむね満足しているようである。忘れていた内容をおさらいできるよい機会となっている。	各自の進路実現に向けて、それぞれの生徒が成長し力をつけられるように、問題や課題を精選し、ICTを活用するなど工夫をしていく。
	1	物理基礎	課題解決の機会を多く設定したことで、考えを広めたり、考えをまとめる機会が多いと感じる生徒が多いようである。	知識が定着したことを実感できるような問題演習や、課題設定が必要である。
	1	化学基礎	授業内容について、既習事項と関連付けた理解がある程度できていることがうかがえる。他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会については、あまり機会がないと感じている生徒が多いことが分かった。	単元ごとに、グループワークや実験を行い、他者の考えを知る機会や、自らの考えを広げ深める機会を設けていく。
	2	物理基礎	実演や実験を望む生徒が多いようであった。振り返る機会などを意識した授業づくりを進めている。	生徒の主体性を高めつつ、演示を増やす取り組みをしていきたい。
	2	化学基礎	他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会や、課題について解決方法を考える場面が少ないと感じている生徒が多いことが分かった。	問題演習を行う機会が多くなっていくが、グループワークを設定するなどしてお互いの考え方を共有できる場面を増やすとともに、解決方法を考える機会を多くする。
	2	生物基礎	他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会が少なく、そのような指導ができていないと感じている生徒が多い。	議論を交わしたり、協働的に学習できるような授業づくり等を通して、必要な知識を身につけ、考えを広げ深めることができるように務める。
	3	物理	他者の考え方に触れる機会を多く持つことを意識して授業を作っていた。授業内容や最終到達点やや不明確になってしまっていると感じている生徒もいたということが課題である。	目標を明確にし、既習内容や生活との結びつきを理解できるような授業づくりを意識しつつ、他者との考えの違いを実感できるような授業展開を継続したい。
	3	化学	他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会が少なく、そのような指導ができていないと感じている生徒が多い。	単元ごとに、グループワークや実験を行い、他者の考えを知る機会や、自らの考えを広げ深める機会を設けていく。
	3	生物	他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会が少なく感じ、そのような指導ができていないと感じている生徒が多い。	他者と協働的に学習し、他者の考えを聞いて自分の考えを広めることや、解決方法を考える機会をつくっていききたい。

保健 体育	1	体育	「自らの考えを広げ深める」に関して、課題が残る。そのような指導がされていないと感じている生徒が他の項目よりも多い。 できるようになったと実感している生徒が多い。	自分の考えを他者と共有しながら、他者の意見にも耳を傾け、考えをさらに深め、広げられる授業づくりを行っていきたい。また、できたことを一つでも多く感じることができるよう、これからも指導を継続していく。
	1	保健	「自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面」については課題が残る。	自分の考えをまとめ、解決方法について考える場面の設定を多くし、他者と共有できるようにしていく。
	2	体育	自分の考えをまとめ知識をもとに解決方法を考える場面が得られていないと感じる生徒や授業の中でできるようになったことを実感できたの項目が低い生徒が見受けられた。	ねらいを明確にし、生徒自らが解決方法を考えることのできる授業展開を目指したい。
	2	保健	自らの考えを広げ深めることができたという生徒が多く、実生活に活かせる内容が多くあったように感じる。また、他者の考えを知り自らの考えを広げ深めることもできている生徒が多かった。	ねらい、振り返りの評価がやや低い。毎回の授業の中で工夫をし、学習のねらいや学習後の振り返りの充実を目指したい。
	3	体育	課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面が多いという項目が高かった。学習カードなどを用いて、個人ごとの課題を書き出し、改善するための方法を考えるという授業方法が良かったのではないかと。	生涯続けることができる種目を1つでも見つけられるように、技能の向上を感じることのできる授業づくりを行っていきたい。
芸術	1	音楽Ⅰ	授業の中でできるようになったことを実感できた生徒が多かった。また、他者との交流から視野を広められたとの感想も多かった。	演習活動を通じ、自分の感性や能力を広げられるよう、課題を工夫していききたい
	1	美術Ⅰ	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができたという生徒が多く、知識を技術に活かすことができているようである。	ねらいや振り返りは題材のはじめと終わりに行っているが、結果を見ると数値は高くないので十分に伝わっていないか、もしくは質問文の毎時間というところで行われていないと判断している可能性がある。
	2	音楽Ⅱ	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができたという生徒が多く、技術をより発展させる方向を目指しているようである。	授業のねらいを、演習活動のなかでしっかり認識できるように、課題に取り組む際の意識づけを明確にし、振り返り活動を取り入れながら展開してゆきたい。
	2	美術Ⅱ	学習事項を体系的に理解できている生徒が多いようである。また、他者の考えに触れ自らの考えを深められる機会があると感じている生徒が多い。	生徒の様子を踏まえ、高度なことを求めてよい部分等を見極めながら後期の授業を展開し、自己を表現できるようにする。
英語	1	英語コミュニケーションⅠ	「授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある」の項目の評価が低かった。授業プリントにはねらいや目標が記載されているが、生徒と一緒に確認する機会を設けるべきだったと考えられる。	必ず授業や単元のはじめに生徒とともに学習のねらいを読みあげて確認し、終わりには振り返りのための活動を取り入れていきたい。
	1	論理表現Ⅰ	「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の項目の評価が低かった。文法の基礎を学習する際に演習中心になっており、表現活動をあまり取り入れられなかったことが原因だと考えられる。	学習した文法を用いて特定のテーマをもとにペアで話すなどのコミュニケーション英語の表現活動を演習の前後に取り入れていきたい。
	2	英語コミュニケーションⅡ	「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の項目の評価が低かった。生徒にとって、英文読解と問題演習の機会が多い一方で、表現活動の機会が少なかったと考える。	課末問題の演習後に英語でのやりとりの機会を設けることで、生徒が英語を学ぶだけでなく、使う場面を定期的に設定する。
	2	論理表現Ⅱ	「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を学ぶなど、自らの考えを広げ深めることができた」の項目の評価が低かった。原因として、問題演習の時間が長い一方で、生徒間の意見のやりとりをする機会が少なかったと考える。	問題演習後に、表現活動のための「目的」・「場面」・「状況」を設定することで、生徒が意欲的に表現活動の練習に取り組めるように支援を図る。
	3	英語コミュニケーションⅢ	「学習の中で他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」が3.12ポイントと最も高い結果となった一方、授業で得た知識の活用については、2.96ポイントと課題が見られた。	学んだことを自分の身体の一部として使えるようにする必要がある。とりわけ表現活動においては、生徒が英語をトライ＆エラーをしながら、知識を記号接地させる機会の増加を図る。
家庭 情報	3	論理表現Ⅲ	全項目において、3または4の評価を多く得ており、学習内容を理解し、身につけている、又はできるようになったと実感している生徒が多いと思われる結果を得た。	全項目とも1または2の評価が若干あり、授業内容が定着していない、または授業内容を理解していない生徒がいると思われる。小テストや練習問題の繰り返し等、学習内容がより身につくよう、一層の工夫が求められる。
	2	家庭基礎	他項目と比べて、他者の考えを知り...の項目が低くなっている。また、自分の考えについてまとめる時間があまり取れていないと感じているようである。	単元(分野)ごとにグループワークを設けているが、授業時間だけでは足りないため、振り返りを宿題などにして、じっくりと考える時間を設ける。また、少ない時間で学習効果が得られるような実習教材を精選する。
情報	2	情報Ⅰ	エクセルやプログラミングの課題を毎時間やらせることで、できるようになったことを実感させることができたかと分析します。一方、他者の考えを知り、自らの考えを広げることに課題が残った。	4人の生徒が向かい合う座席になっているので、実技と座学ともに話し合ったり、助け合ったりしながら課題をすすめ、他の生徒の考えから知識を広げるように促したい。